

01 朝鮮最古の都・平壤の主要スポット

(1) 平壤の概要と歴史

a) 朝鮮民主主義人民共和国の首都

大同江中流の準平原地帯の北端に位置、人口は約 200 万（1990 年）

地方行政上は特別市で、平壤市のほか江南郡、中和郡、祥原郡、江東郡を含む

市内には大同江のほか普通江など流れ、大同江の中州として綾羅島、羊角島、豆老島など

李朝時代：約 2 万名、市街地は万寿台から蒼光山に至る地域

植民地時代：1930 年に約 15 万、蒼光山以南に軍事施設（←日清戦争）、大同江東岸に工場地帯建設

b) 古朝鮮の王都＝王儉城

檀君朝鮮：檀君（＝朝鮮民族の始祖、『三国遺事』に初出⁽¹⁾）が、堯帝即位 50 年（BC2333 年）平壤を都（王儉城）として国を開き朝鮮と称する⁽²⁾

* 20 世紀初めに檀君教（大倂教）成立、韓国では 1961 年まで檀君紀元を使用

箕子朝鮮：BC4C ごろ、殷が滅亡した後、周につかえず亡命した箕子が、平壤付近に建国したという伝説

* 存在は否定されるが、同時期に朝鮮とよばれる勢力は存在

衛氏朝鮮（BC195 ～ BC108）：燕からの亡命者・衛満が箕子朝鮮を滅ぼし、前王の故都王儉城を首都とする→在地の小国と連合？

* 檀君朝鮮・箕子朝鮮は説話的要素が強いのにに対し、衛氏朝鮮は実在の国家と見られる

c) 漢・楽浪郡（BC108 ～ AD313）

漢の武帝が衛氏朝鮮を滅ぼし、平壤付近に設置。漢四郡の一つ

(1) 1280 年代成立。天帝の子・桓雄^{かんゆう}が熊女（21 日間洞窟で陽光を見ずに生活した熊が人間の女になる）と結婚し、檀君が生まれたとする。

(2) その後、都は阿斯達に移され 1500 年間国を治めた。箕子が朝鮮に封ぜられたので、隠棲して山神になった。

d) 高句麗の首都（427～668）

高句麗は BC1 世紀後半建国、首都は輯安

AD313 楽浪郡を滅ぼす

427 平壤遷都（太祖・東明王陵も移転）、大城山に城を建設（552～）＝王宮・安鶴宮→長安城建設（586）：北城（山城）、内城・中城（中心）、外城

598～612 隋の侵入を撃退

668 唐・新羅連合軍が滅ぼす

→遺民が中国東北地方に脱出、大祚榮が渤海を建国（698～926）

e) 以後、朝鮮北部の中心都市として発展

シャーマン号事件（1866）：アメリカの武装船シャーマン号が大同江侵入、豆毛島占拠

→平安道觀察使朴珪寿の指揮で焼き払い沈没

キリスト教の普及：西洋の文物吸収、高い文化水準→独立運動の重要な拠点、ソウルとはまた別の性格

(2) 平壤市の主要スポット

① 万寿台地域——平壤市の中心、小高い丘

万寿台大記念碑：金日成の業績を長く伝えるため生誕 60 周年（1972 年）に建立

正面に金日成銅像
 バックに白頭山壁画（石モザイク）＝朝鮮革命博物館（1972 年会館）の外壁
 向かって右に抗日革命記念塔、左に社会主義革命および社会主義建設塔

千里馬⁽¹⁾銅像：1961 年建立、全高 46m。疾走する朝鮮人民の英雄的気概を象徴する伝説の駒を形象化。朝鮮労働党中央委の手紙をかざした労働者と稲束を抱えた若い農民女性

万寿台議事堂（84 年竣工）

万寿台芸術劇場：朝鮮で最もモダンな劇場。延べ坪 6 万㎡。人民大学習堂の右側にある。劇場正面にある噴水公園の夜景が素晴らしいという

(1) 千里馬運動：1956～大衆を大量動員した経済建設

崇霊殿と崇仁殿：13～14世紀に建てられた祀堂。古朝鮮始祖檀君と高句麗始祖東明王の祭祀を行っていた建物。平壤では最古の建物の一つ

②大同江周辺——文化・大衆施設

金日成広場：中央広場、54年完工3万6000㎡→87年拡張7万5000㎡。政治・文化行事、大集会開催

チュチェ思想⁽¹⁾塔：チュチェ思想象徴の石塔。1982年建設。金日成広場の川越しに立っている。高さ170m（その内烽火の高さ20m）の世界で最も高い石塔

朝鮮中央歴史博物館：原始社会から近代までに至る史物、史料などが展示されている。金日成広場の横にある。延べ坪1万㎡。

朝鮮民俗博物館：1956年開館。数千点の遺跡、遺物を展示している。

朝鮮美術博物館：優れた美術品が展示。1954年に開館。延べ坪1万1,000㎡

人民大学習堂：82年開館、南山の丘に建つ。延べ坪10万余㎡。蔵書3,000万部、収容能力1日1万人

大同門：6世紀中葉、高句麗時代に平壤城内城の東門として建設。現在の建物は1635年再建。高さ19m、大同江ほとりに立つ

③普通江周辺——かつてはしばしば氾濫、46年の改修後、公共施設建設

普通門：6世紀中葉に建てられた平壤城中城の西門、1473年修復

人民軍サーカス劇場：普通江のほとり、万寿橋の傍らにある

祖国解放戦争勝利記念館：抗日武装闘争時と朝鮮戦争時の戦果、経験などが集大成されている。延べ坪5万2000㎡。1953年開館→1974年現位置移転

人民文化宮殿：千里馬通りの普通江ほとりにある。大衆文化施設でありながら国際会議の場所としても利用される。

平壤体育館：朝鮮最大の体育館、1973年竣工。千里馬通りの中心に位置している。延べ坪6万6,900㎡。

アイススケート・リンク：千里馬通りの普通江ほとりにある。スキー帽を象った45度傾斜の円錐型建物

(1) ソ連式・中国式ではないウリ式、朝鮮革命が労働党の思想活動の主体

④牡丹峰地区

金日成競技場：牡丹峰の麓、82年竣工、収容能力10万人。もとは小さな公設グラウンド（牡丹峰競技場）で、金日成が帰国後初めて演説した45年10月の平壤市民大会が開催された場所

凱旋門：金日成の凱旋を記念して1982年建設。金日成競技場前十字路に立っている。高さ60m

金日成総合大学：1946年10月1日、光復後の朝鮮に最初に創立された総合大学。大城区域龍南洞に位置。延べ坪40万㎡。14学部、学生数1万2000余名

七星門：内城北門

玄武門：北城北門

転錦門：北城南門

⑤万景台地区——金日成生誕地、幼年期を過ごす

金日成生家：かつて朝鮮の農村どこにでも見られた軒の低い藁葺きの家で、金日成の曾祖父金賈禹の代から4代を継いで暮らしてきた。生家周辺にはブランコの場、滑り台の岩、軍艦岩などの史跡が原状のままに保存されている。

万景台遊戯場：金日成の生家近くにある朝鮮最大の遊園地

⑥大城山地域——高句麗の山城

大城山城：3世紀中葉に大城川の峰々を結んで築いた山城。高句麗の山城の内では最大であった。南麓に王宮・安鶴宮跡がある

大城山遊園地：中央植物園、中央動物園、大城山遊戯場から成っている

大城山革命烈士陵：大城山朱雀峰の頂にある。1975年に建設、85年に改築。敷地30万余㎡。祖国の自主独立達成のために闘い、犠牲になった革命烈士たち100名の胸像がある

02 解放・分断後の北朝鮮

(1) ソ連の対日参戦と朝鮮北部占領

a) 第2次大戦中の諸協定

カイロ宣言 (1943.11.27) で朝鮮独立決定 (資料①)

テヘラン会談 (43.11.28 ~ 12.1) : ローズベルト、40年の信託統治構想

ヤルタ協定 (1945.2.11) ⁽¹⁾ : 秘密協定でソ連の対日参戦決定←アメリカの要請

b) ソ連軍の進駐

宣戦布告 (1945.8.8。戦闘開始は8.9)

満州の関東軍粉砕、朝鮮への作戦は補助的 (日本軍の進路を絶つ) →停戦 (8.20)

↓

占領軍=第25軍⁽²⁾、8月末までに朝鮮北部のほぼ全域に進駐、日本軍を武装解除
平壤への進駐 (8.26) =第25軍司令部設置

北朝鮮進駐ソ連軍布告 (8.24? 資料②) : 朝鮮の独立を祝福。しかし具体的な占領政策は明らかにされず

→道政を朝鮮人側に委譲 (8.27) =実質上、朝鮮北部の中央政府に近い役割

↓

平安南道人民政治委員会成立 (8.29?) : 建準⁽³⁾平南支部 (8.17。曹晩植ら民族主義者優勢) ・朝鮮共産党平南委員会 (8月末。玄俊赫) が合作、15名ずつ

c) 占領体制の確立

占領方針の指令 (資料③ 9.20、スターリン→ワシレフスキー極東ソ連軍総司令官) →ソ連軍民政部設置 (9月下旬)

——朝鮮北部に独自の朝鮮人の政権樹立方針 (間接統治)、広範な連合勢力を基盤に (親日派を排除すれば親ソ的な朝鮮人を中心に勢力結集可能との予想)

(1) 朝鮮についてはいっさい言及なし。ローズベルト米大統領の信託統治構想にスターリン原則同意。「短ければ短いほどよい」

(2) 司令官チスチャコフ大将 (のち北朝鮮占領軍司令官)。1900年生、「ごく普通の軍人」

(3) 8.15 ソウルに樹立

(2) 金日成の登場

a) 帰国 (9.19. 元山港) = 「満州派」 → 共和国の中枢へ

b) 平壤市民大会 (1945.10.14)

金日成登壇⁽¹⁾ → 民衆の熱狂が金日成の比重を高める

c) 朝鮮共産党北朝鮮分局の創設 (1945.10.13) ← 朝共再建 (9.8. ソウル)

金日成、党第1書記就任 (1945.12.17) … 第3次中央拡大執行委

「民主基地」論：北朝鮮を全朝鮮変革の「民主基地」 = 先改革・後統一
——北朝鮮独自の中央組織に向かう

d) 信託統治問題の影響 ← モスクワ協定 (12.27)

朝共北朝鮮分局、独立同盟など全面同意・支持声明 (1946.1.2)⁽²⁾

(3) 北朝鮮の独自路線

a) 金日成政権下の社会主義改革

北朝鮮臨時人民委員会 (46.2.8. 金日成政権)

↓ 第1次北朝鮮人民会議開催 (47.2.21)

北朝鮮人民委員会 (47.2.22)

土地改革令 (46.3.5) : 約1カ月間に地主の土地は実質的にすべて没収⁽³⁾、小作70万戸に無償分配⁽⁴⁾ → 農民の生産意欲上昇⁽⁵⁾

親日派一掃 = 親日派・民族反逆者規定 (3.7) : 人民裁判で親日派の社会的地位剥奪、財産没収 → 反対派越南、民主改革順調に

(1) 初めて大衆の前に姿を現す。当時 33 歳、若さに民衆驚く。「金日成将軍歓迎大会」として熱狂的に市民参加

(2) 曹晩植ら反託運動展開 → 平南人民委委員長辞職、ソ連軍により軟禁状態

(3) 日本人・民族反逆者は全面没収、朝鮮人も自作地5町歩以上没収。約100万町歩

(4) 急激なスピード (わずか20日間) … 遊撃隊方式 = やれるときにやって農民に印象を残す (和田説)。ほとんど流血事件なし、南とは違う社会体制へ踏み出す

(5) 1949年までに穀物39%、綿花・繭・豚3倍、牛1.6倍

重要産業国有化：8月末に90%企業国有化、工業生産高急増⁽¹⁾

↓

社会主義体制へ基礎固め

一連の改革は金日成の名で→北朝鮮人民に強い印象。すでに個人崇拜の萌芽

b) 北朝鮮労働党成立（1946.8.28）：金科奉委員長、金日成副委員長

北朝鮮共産党（労働者・農民、26万6千）＋朝鮮新民党⁽²⁾（小ブル・インテリ、9万）

左派勢力の実質的統一⁽³⁾＝単一（排他的）指導体制構築

ソウル中央との断絶、南の左派に対する指導意欲

c) 米ソ共同委員会決裂（1947.7.10）→米、朝鮮問題を国連に提訴（9.17）

金日成、UNTCOKの38度線以北への立ち入り拒否（48.1.9）→以後、独自の政権樹立作業進展

(4) 分断政府の樹立

a) 第5次北朝鮮人民会議（7.10）

憲法施行、朝鮮最高人民会議代議員選挙実施を決定

選挙日は8.25に。北では99.88%投票、212名選出。南は南朝鮮人民代表者大会（8.21～26。海州）⁽⁴⁾で、360名選出→計572名の最高人民会議代議員決定

(1) 1946：100 → 1949：337

(2) 46.2.16 独立同盟を改編、北朝鮮共産党と歩調を合わせ。広範な中間層を左派に結集ねらう（南では白南雲中心の京城特別委を6.26 南朝鮮新民党中央委に改編）

(3) 南朝鮮労働党（46.11.23）→合同（49.7.2）

(4) 地下間接選挙（有権者の77.5%参加、南労党・南民戦指導）で全権委任を受けた1080名中、1002名出席。南労党系＋権泰錫（民主韓国独立党）、呂運弘（社会民主党）、金奎植（民衆同盟）など協商派参加

b) 朝鮮最高人民会議第 1 次会議 (9.2) ⁽¹⁾

憲法採択 (9.8) : 首府ソウル、全朝鮮を領土 (実効的支配は 38 度線以北のみ、南朝鮮は米帝国主義の支配する傀儡政権)

↓

朝鮮民主主義人民共和国成立 (1948.9.9) → 1948.12 ソ連軍撤収完了

首相 : 金日成、副首相 : 朴憲永 (兼外相) ・ 金策 (兼産業相) ・ 洪命熹、民族保衛相 (軍事担当) : 崔庸健

* 従来の北だけの政権に南出身者 (南労党系 = 朴憲永グループ) も加わる = しばらくは金日成 ・ 朴憲永連立政権

* 満州派は軍事面に結集 : 1947.2.8 朝鮮人民軍創設、師団長はすべて満州派

* 党 ・ 政府はソ連系、延安系 ⁽²⁾ → 金日成はこの上に乗って党と国家運営

(5) 朝鮮戦争

① 第 1 段階 : 開戦 ・ 人民軍の進撃

a) 開戦

北朝鮮進攻開始 (1950.6.25 未明) → 朝鮮人民軍、ソウル占領 (6.28) → 大田占領 (7.20)

韓国政府、釜山を臨時首都 (8.18) → 9 月初め、人民軍が釜山 ・ 大邱地域を除いて全国土を占領後、膠着状態へ

b) アメリカの対応

国連安保理、ソ連欠席 ⁽³⁾ のまま、北朝鮮の行為を「平和の破壊」と断定、北緯 38 度線までの撤退を要求する停戦決議 (安保理決議 82) 採択

↓ 人民軍、ソウル占領 (6.28)

(1) 議長 : 許憲 (南労党)、副議長 : 金達鉉 (北朝鮮青友党)、李英 (勤労人民党)

(2) 同じ中共系として満州派との親近感。中共第 7 回大会 (45.7) で「毛沢東思想」提唱 (毛沢東が中共の絶対的リーダー) → 各国の共産主義運動にはリーダーが必要との認識、金日成盛り立て

(3) 中国代表権問題をめぐって、中華人民共和国と蒋介石政府の交替を主張 (米 ・ 英反対)。1 月よりボイコット

トルーマン、米地上軍（＝日本占領軍）の出動命令⁽¹⁾（6.30）＝アメリカ、朝鮮戦争に全面介入→警察予備隊創設指示（7.8）

安保理、国連軍の結成決議（7.7 安保理決議 84。最高司令官マッカーサー、16 カ国）→韓国軍の指揮権を国連軍司令官（＝米軍司令官）に委譲（7.14）→東京に司令部設置（7.25）

②第 2 段階：国連軍の反攻

a) 仁川上陸作戦（9.15）⁽²⁾

↓

ソウル奪還（9.28?）→北緯 38 度線を越え（10.9）、平壤占領（10.20）

③第 3 段階：中国の参戦

a) 中国人民志願軍の参戦（10.25）⁽³⁾＝朝鮮半島を舞台とした米中戦争へ 平壤回復（11.25）→ソウル奪回（1951.1.4）→37 度線到達（1.7）

b) 国連軍の再反撃

反撃開始（1.25）→ソウル回復（3.14）→38 度線を越える（3.24）→以後、38 度線付近で戦局は一進一退→ソ連、国連に休戦提起（6.23）

c) マッカーサー、満州に原爆投下を主張→トルーマン反対 マッカーサー国連軍総司令官解任（1951.4.11）

④第 4 段階：停戦

a) 休戦協定（1953.7.27。板門店）

休戦会談（開城⁽⁴⁾）：予備会談（1951.7.8）→本会談（7.10）

(1) マッカーサー、日本政府に警察予備隊創設指示（7.8）

(2) 国連軍、兵員 5 万人、艦船 230 隻の奇襲作戦。人民軍の補給路を絶つ

(3) 国連軍が 38 度線を突破すれば軍事介入すると警告（10.1）。毛沢東、反対意見を押し切り参戦。「抗美援朝」…アメリカとの対決は不可避。10.19 朝鮮に入る

(4) のち板門店（1951.10～）

b) 結果

死者 400 万名以上（南北朝鮮＋中国 100 万＋米 6 万 3 千人）⁽¹⁾

韓国軍・米軍による住民虐殺

民族分断の固定化、南北両政権独裁化の決定的契機

東西冷戦激化の契機

対日講和条約・日米安全保障条約・日本の再軍備と高度成長

(6) 金日成体制の確立

a) 金日成への権力集中

労働党中央委員会第 3 回総会（三中総。1950.12）：党組織の建て直しのため、党内の結束が求められ、異なる意見の存在が許されなくなる⁽²⁾

↓

四中総（1951.11）で具体化→金日成、許哥誼（ソ連派）批判。のち許哥誼、自殺

五中総（1952.12）：「個人の利益追求」批判

朴憲永・副首相ほか旧南労党系幹部が「アメリカ帝国主義のスパイ」として粛清⁽³⁾
→朴憲永処刑（1955.12）＝事実上、朝鮮戦争失敗の責任をとらされた形

大量に党員拡大（1 年間に 50 %増。100 万人以上）、新党員はみな金日成に忠実
→休戦後「プロレタリア独裁」確立

* 党も完全に金日成の路線へ。地位・発言力は絶対的に

(1) 韓国・国連：死傷者・行方不明者 115 万、中国・北朝鮮：142 万、非戦闘員犠牲者・行方不明者 200 万人以上。物的被害＝韓国：30 億 3000 万ドル（総国民所得の 2 倍）、北朝鮮：国土の大半が荒廃、53 年の工業生産は 49 年の 64 %（電力 26 %、製紙 26 %、水産 24 %、冶金 10 %。軍需産業のみ肥大化）。農業生産は 76 %（綿花 23 %、繭 58 %）

(2) 軍事的失敗の責任を負わされ将官罷免、処刑

(3) 53.3 初め 12 名を裁判にかけ 10 名直ちに処刑、他の 2 名は 15 年、12 年

b) 復興援助と社会主義建設

「経済復興 3 カ年計画」 (1954 ~) ⁽¹⁾ : 重工業の優先的発展

ソ連・中国など社会主義諸国から約 7 億 5000 万ルーブルの無償援助⁽²⁾→急速に復興

農業集団化 (1953 ~) : 漸進的、比較的スムーズに→ 58 年に協同化完了⁽³⁾

c) 「自力更生」と千里馬運動

休戦後、ソ連・中国に完全従属→民族主義の強化=チュチェ演説⁽⁴⁾ (1955) : 「主体」を確立するため、ソ連派・延安派批判

ソ連、スターリン批判 (1956.2、) ⁽⁵⁾→延安派・ソ連派が、金日成個人崇拜批判→満州派の逆襲で失敗

ソ連派一部 (500 人) はソ連に帰り、延安派の一部は中国に亡命→粛清 (投獄、処刑) = 満州派が党完全掌握

中国の不快感 : 朝鮮駐留軍の全面撤退 (1958) ⁽⁶⁾

北朝鮮は独力で韓・米に対峙 (自力更生)

↓

生産計画を超過遂行、集団的に技術革新→社会主義競争運動 (大衆を最大限に動員、経済建設を急速度に進める)

(1) 六中総 (1953.8) で決定

(2) ソ連・東欧からは設備・技術面 (製鉄所・機械工場再建、都市の復興建設)。中国からは現物供与 (石炭・コークス・穀物・綿布・鉄道車両)

(3) 集団化に並行して農業生産も回復。56 年に穀物生産高が朝鮮戦争前の水準を突破、機械化も進行

(4) 朝鮮革命は労働党の思想活動の主体。ソ連式でも中国式でもない、ウリ式で。

(5) 1953 年、スターリン死去。ソ連共産党第 20 回大会でフルシチョフ第 1 書記がスターリンによる粛清の誤り、個人崇拜による独裁など批判→対米平和共存路線へ転換→中国・北朝鮮は応ぜず

(6) チベット分離独立運動を発端とする中印国境紛争のため

「千里馬運動」の開始⁽¹⁾（1956）＝第1次5カ年計画（予定：1957～61）の目標を達成するため→1959.6完遂、重工業化⁽²⁾

↓

韓国に対する相対的優位を誇示

計画経済の上に1党独裁がのっかるソ連型国家社会主義体制＋民族主義（チュチェ）

(1) 降仙製鋼所（平安南道）、「千里馬精神」で、年間6万トンの製鋼設備で2倍の鋼材を生産した成果が報告

(2) 金属・機械工業の割合、49年：8%→60年：21%。1960年に機械設備の国内自給率が91%、工業生産額が全生産額の71%

※板門店について

a) 共同警備区域 (JSA) : 800 平方メートル、24 棟建物

軍事停戦委員会本会議場

自由の家 (展望台、南北離散家族の面会所)

板門閣 (北側観光客見学所)

帰らざる橋 (両側の捕虜が送還) → ポプラ伐採事件 (1976)⁽¹⁾ 後、相手方地域への
出入り禁止

b) 自由の村 = 非武装地帯・大成洞に住民居住 (日暮れまでに必ず帰宅)

北側にも同様の居住地域 (平和の村 = 起正洞) あり

c) 南北をつなぐ唯一の陸上通路

捕虜の交換

政治・文化・スポーツ交流などで双方の代表が通過

80 年代以降、政治目的をもった南側の人物が韓国政府の許可を得ず第三国経由で
北に入国 → 分断の象徴を越えるという意味で板門店を通過して南に帰る → 国家保安法違
反で逮捕

d) 年間観光者 = 南 : 約 6 万人、北 : 約 9000 人

(1) 帰らざる橋南側 75m、第 3 哨所から 30m 地点の 2 本のポプラが、第 3・5 哨所か
らの視界を妨げる → 8.18 国連軍伐採計画、北側妨害し衝突、米兵 1 名死亡、米兵 4
名・韓国兵 1 名重傷 → 8.21 国連軍ポプラを切り倒す → 共和国は帰らざる橋の通行が
できなくなったため 72 時間橋をつくる

03 城郭都市ソウル

(1) ソウルという呼称

元来は「漢陽」（漢江北岸の都市の意）

李氏朝鮮成立（1392）→遷都（1394）で「漢城」

韓国「併合」（1910）後は「京城」⁽¹⁾

解放（1945）で「ソウル」

(2) 城郭の建設と破壊

a) 建設：都城完成（1397）、突貫工事で

b) 4つの大門と4つの小門

大門：東大門（興仁之門）・南大門（崇禮門）は保存、西大門は1925撤去、肅正門は1976復元（閉門）

小門：東小門（恵化門）・西小門（昭義門）は消失、南小門（光熙門）は1975復元、北小門（彰義門）は保存

その他、独立門←迎恩門

c) 鍾路と鍾閣

東西大門を結ぶ鍾路に古い商店街（官庁に物資を納める特権商人）

鍾閣建設（普信閣、1399）→朝鮮戦争で焼失、1977復元

罷漏＝午前3時ごろ開門（33回打鐘）、人定＝午後7、8時ごろ閉門（28回）

d) 城郭の破壊

保護国期、日本皇太子（のち大正天皇）が韓国皇室訪問→南大門北側の一部城壁を撤去＝首都陥落の象徴的意味

城壁の破壊とともに城内・城外の境界線が曖昧に＝近代化・文明化と植民地化の同時進行

(1) 1876年、日朝修好条規で日本人が使用。首都の意

(3) ソウルの宮殿

a) 五宮

景福宮：正殿、1394 着工→ 95 竣工

——昌徳宮と結ぶ線上が「北村」（清溪川の北）＝日当たり・排水がが良く、両班・現職大官が居住（南山麓は「南村」＝下級官僚、貧しい両班）

昌徳宮：1404 完成、秘苑

昌慶宮：1419 完成

徳寿宮：1593 完成、旧慶運宮（臨時御所）

慶熙宮：1614 完成、日本により破壊、現在復元中

b) 景福宮の位置

北岳（主山）を背景として帝王は「南面」

左廟右社

左（東）に宗廟＝歴代の国王・王妃の神位（位牌）を安置

右（西）に社稷壇：社壇＝土地の神（国土正位土神、后土神）と稷壇＝五穀の神（五穀正位土神、后稷神）→国土安全、五穀豊饒

正門＝光化門前に官庁街

c) 朝鮮総督府庁舎の建設＝景福宮の一部破壊

1916 着工→ 1925.12 完成

光化門撤去計画→反対：柳宗悦「失はれんとする一朝鮮建築のために」（1922）

結局、移転→解放後、現位置に復帰

1995 年より総督府庁舎解体工事→景福宮復元

(4) ソウルの門戸開放

日朝修好条規（1876）→仁川開港（1883.1.1）

朝英・朝独修好通商条約（1883.11.26）第 4 条：ソウルを英・独人に居住の場として開放→各国に適用

04 植民地都市ソウル

(1) ソウルの人口増加

a) 人口の変遷

1428 : 10 万 3000 人

17C 後半 : 20 万弱 → 以後 200 年間大きな変動なし

1909 (「併合」直前) : 約 27 万 (旧城壁 5 部・8 面、城外 12 面) → 以後漸増

1914 : 洞・町名称確定

1936 : 府域拡大「大京城」=面積 3.8 倍、人口 1.7 倍 (63 万 6000 人)

1942 : 植民地期のピーク 111 万人⁽¹⁾

b) 人口集中の前提 = 交通網の整備

鉄道 : 1882 仁川開港 → 1899.9 鷺梁津まで鉄道開通 → 1900 漢江鉄橋竣工、西大門まで京仁鉄道全通。1904 京釜・1906 京義鉄道開通 = 縦断鉄道完成

電車 : 1899.5 清涼里 - 東大門 - 西大門間開通 → 1900 龍山へ延長

1907 南大門北側城壁撤去

(2) ソウルの「ニューカマー」たち = 地方から来た朝鮮人、日本人

a) 居住地域の分化

清溪川⁽²⁾を境界に、日本人は「町」地域、朝鮮人は「洞」地域

繁華街は日本人は本町・黄金町、朝鮮人は鍾路

文化・生活様式で日本人が優位、水道・電気・ガスなど

b) 日本人居住地域の形成 = 泥岬 (チンコゲ、진고개⁽³⁾)

南山麓・日本公使館中心に日本人街形成

ソウルの場末地域 = 坂道、南山からの流水で氾濫

(1) 解放後、1949 年市域拡張 (人口はむしろ減る)、50 年代は約 100 万人。60 年代以降急増 (60 年 : 24 万、62 年 : 298 万)、63 年大拡張 = 面積 2.3 倍・325 万 → 70 年 : 543 万 → 73 年一部編入、629 万 → 80 年 : 836 万、80 年代 1000 万都市に → 90 年 : 1063 万

(2) 常時湿気が多い、しばしば氾濫。現在はコンクリートで覆われる。

(3) 질다 : ぬかるむ、水気が多い。

日清戦争前にソウルの商業中心街、入口に日本領事館

「本町」の前身（現・忠武路）：三越、京城郵便局、朝鮮銀行など

c) ソウルの日本地名

ソウル駅～南大門＝御成町（現・蓬萊洞？）← 1907.10 皇太子、韓国皇室訪問、道路修理

1914 全面改編＝地名変更

* 解放後、復活した例：明礼洞→明治町（現・明洞）、小公洞→長谷川町⁽¹⁾、南小洞→並木町、筆洞→桜井町・大和町

* 日本人町の区域に従って解放後に地名変更：本町（現・忠武路⁽²⁾）、黄金町（現・乙支路⁽³⁾）

d) 龍山（後背地に梨泰院）

開市場（1884.10.16、朝鮮人と雑居）←日朝修好条規続約（82.7）で楊花津開港規定（龍山に変更）

1904.2 日露開戦、日本軍ソウル入城→韓国駐劄軍司令部創設（04.3.11）

軍用地収容＝兵舎・関連施設建設（臨時鉄道監部：龍山を起点に京義鉄道工事着手）、日本軍集中

↓

軍事都市「新龍山」：1914.6.1 朝鮮軍司令部設置（日本軍の本拠地、第 20 師団）→解放後は在韓米軍司令部、現在は移転し戦争博物館建設

e) 「土幕⁽⁴⁾民」の増加

土地調査事業・産米増殖計画⁽⁵⁾

(1)長谷川好道・朝鮮駐劄軍司令官（のち朝鮮総督）に由来

(2)豊臣秀吉の朝鮮侵略時、日本軍を破って戦死した≠朝鮮水軍の司令官・李舜臣の号

(3)乙支文徳。高句麗の武将、隋を撃退（6C）

(4)土幕＝ほったて小屋

(5)前期講義ノート 06「日本の朝鮮植民地支配と産米増殖計画」参照



下層農民没落、離農



ソウルの雑業層＝都市非公式部門 (urban informal sector)

日雇い労働、職人・職工、行商

都市内で十分な雇用を創出できず

(3) 植民地都市ソウルの特徴

①人口増加

過剰都市化：工業化に先行して都市への人口集中⁽¹⁾、プル要因より農村貧窮化というプッシュ要因のほうが大きい

首位都市化：政治的・経済的機能の集中

②二重構造

植民地支配にともなう、日本人と朝鮮人との格差・分化

(1) 今日でも多くの開発途上国で見られる

05 NIEs都市ソウル

(1) NIEs とは？

Newly Industrializing Economies（新興工業経済地域）

発展途上国中、70年代から急速な工業化→GNPに占める工業のシェアが30～40%（＝先進国に近い水準）

韓国、台湾、香港、シンガポール、アルゼンチン、メキシコ、ブラジル

4頭の龍

低賃金＝低コストを生かした世界市場への輸出

しばしば「開発独裁」：民主化が抑えられ独裁者の強力なリーダーシップで経済発展（アルゼンチンが最初の分析モデル）

(2) 解放後の遺産と断絶

① ソウル住民の入れ替わり

日本人の引き揚げ、在外朝鮮人の帰国→流動化（1944→1947：朝鮮人人口増607,511人、うち流入者数577,511人＝95.1%）

朝鮮戦争の混乱で拍車：住宅183万坪（28.8%）破壊、110万人が一時ソウルを離れる

② ソウルの工業

日本人から接収した帰属工場は軍政期・朝鮮戦争を経て運転休止、破産、消滅

李承晩政権期、アメリカの援助で三白工業発展（綿製品・小麦粉・砂糖）

大工業では「遺産」と断絶、一方で民衆の生活を支える中小工業部門では残存、継承（1960年ごろまで→NIEs化で消滅）

(3) ソウルの膨張と郊外化

a) 植民地期の府域拡大（1936）から1950年代まで

100万～100数十万人（朝鮮戦争の一時期を除く）

b) 転換点＝1960年代←工業化（「漢江の奇跡」）にともなうNIEs都市への変貌

道路・橋梁・清溪川整備（1968 電車廃止→74 地下鉄1号線開通）、高層ビル・アパート建設

背景：朴正熙政権（1961～）の輸出志向型工業化

①人口増加：首位都市の性格強まる

60年代以降、大規模な人口流入→80年代には1000万人へ

ソウルの社会人口増加が自然人口増加を上回る＝70年代の農村人口減少

1980年代、ソウルの人口が周辺都市に流出（衛星都市の出現）→ソウル・首都圏に諸機能集中

②市域拡大→輸出向け工業発展

行政区域が拡大＝63年（江南に編入、面積2.3倍）、73年（63年に新設された地域で本格的都市化、区新設）→1970年代漢江の橋建設ラッシュ

江南への拡張（居住地域の郊外化）＝住宅公団・工業団地新設

住宅公団：江南東部、1962年～アパート建設、高所得者層居住（板子村＝スラムを撤去）

工業団地：江南西部（九老・永登浦地区）＝輸出産業の中心

繊維・機械・化学・食品（従業員数少、労働集約的な中小工場中心）→1970年代～輸出向け部門（衣服製造・電器）急成長

③地域間の住民所得と住宅形態の分化・格差大

1980年代、九老・永登浦地区の従業員学歴は、小卒44%・中卒47%、縁故採用中心→都市低所得者層構成→労働運動高揚、民主化原動力

交通・環境・住宅問題の深刻化

c) 要因

①伝統的要因

中央集権的政治体制（＝地方都市が発達せず）

②植民地的要因

支配の便宜上、ソウルに諸機能集中（政治・軍事・文化・医療・娯楽）、鉄道はソウルを結節点

③解放後の要因

南北分断＝平壤除外→ソウルと他都市との格差広がる

輸出志向型工業化→国際港に近いソウル、釜山の発展

工業団地は京畿道、慶尚道に偏在